

FILE
36 牛の導入

ET研で飼養されている供卵牛たちは市場で購入されたり、ET研の受精卵から生まれた子牛が買い戻されET研にやってきます。

導入時には管理のために耳標と鼻環をつけたり、ワクチン接種を行います。

作業風景がこちら(o^o^)



今回導入された牛ちゃん(▽*)まだあどけない顔をしています。かわいい!!

ここから供卵牛としてデビューするには妊娠→近隣農家で分娩→分娩戻し(ET研に戻ってくる)を経るため1年以上はかかるのです。

今回の導入には高育種価牛の産子が含まれており期待大!! 供卵牛として戻ってくる日を楽しみにお待ちください(^o^)

おまけ
今年は雪が降るのが早く、もうすっかり根雪になりました。上士幌市街からET研まで来る道には危険がいっぱいです(写真は12月上旬頃)。

ご注意ください~



FILE
37 本場での採卵

日本各地に大寒波が押し寄せているとのことですが、ET研究所のある北海道士幌町もまた、猛烈な寒さで悲鳴をあげています(/_<)

朝の気温がマイナス20度以下になることも多く、凍ってツルツルの路面に神経をとがらせながら通勤する毎日。

そんな極寒の中で、2017年の採卵を開始いたしました!! 多くの方に受精卵をお届けするために、早朝からET研職員総出で採卵を行っていますo(@^◇^@)o



写真は採卵の様子です。ちなみに手前は全農のマスコットキャラクター「ゼウシくん」(笑)

今年度初めに採卵を行う獣医師の数が激減し、どうなることかと心配しましたが、若手獣医師(私もその1人です!)が順調に増え、現在は最大8人体制で採卵を行っています。

もちろん採卵は獣医師だけの仕事ではなく、同期化・人工授精をする人、牛を連れてくる人、採卵補助をする人、検卵する人、誰1人欠けても成立しないチームプレーです!!

繁殖技術研修生もこの1年で目覚ましい成長を遂げ、重要な戦力となっています^(@^▽^@)/ このチームワークのおかげで採卵時間は飛躍的に短縮し、10個の枠場はフル稼働状態です!!

もっと早く、どんな牛からもきちんと採卵できるよう2017年も頑張るぞ~d(@^▽^)/

皆さまのお役に立てるよう職員一丸となって受精卵生産に励んでまいりますので、本年もET研究所をよろしくお願いたします。

ET研の「いま」が分かる「全農ET研ブログ」はコチラ▶▶ <http://etken-blog.lekumo.biz/et/>
※編集の都合上、ブログと表記や写真等が異なる場合がございます



ET技術を活用して、優良和牛素牛、優良和牛繁殖牛の増産や、乳牛の後継牛確保・改良の研究を行う「JA全農ET研究所(ET研)」。そのET研が発信しているブログから、皆さまに役立つ情報を紹介していきます!

NO. 10

FILE
34 精液の採取

ET研究所では受精卵だけでなく、黒毛和種精液の試験販売も行っております。そのため、種雄牛からの精液採取は最も大切な仕事の1つです(-*)

精液の採取はいわゆる「横取り法」と呼ばれるもので、雌に見立てた擬牝台と人工膣を用いて行います。

これが擬牝台(富士平工業HPより)



どう見ても雌牛には見えませんが、悲しい雄の性質なのか、みんな擬牝台めがけて突進していきます(;^_^A

そして、擬牝台に乗った雄から精液を横取りするのが人工膣(写真右上)。またしても悲しい雄の

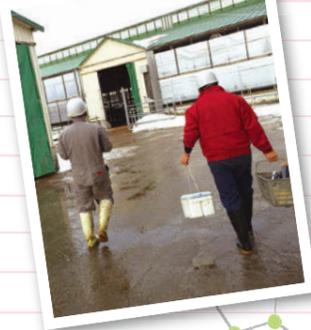
さだめ、ほど良い圧力と温度に調節した人工膣に射精してくれます。

こんな風にだまされてばかりの雄牛ですが、そのパワーはとてつもなく強大なため採精作業は屈強な男性職員が細心の注意を払って行いますΣo(*o*)o

いざ戦いに挑む男たちの後ろ姿です!!

偽物の雌(擬牝台)をかけた人間と牛の雄同士のぶつかり合い……。そうやってET研究所の精液は世に送り出されているのです。

みなさん安全第一でお願いします!!



FILE
35 うれしい悲鳴

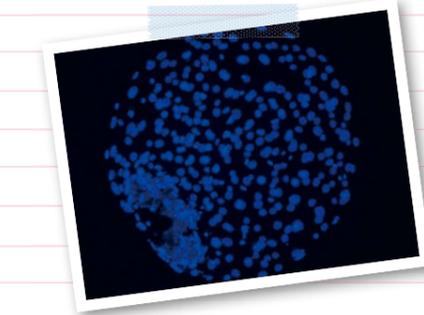
年末年始の間、採卵はしばらくお休みのため前もって受精卵を採り貯めています。毎日かなりの頭数から採卵しております!!

実験室でもしばらくの間実験できないため、計画的に実験しています。

受精卵の保存方法を検討する実験では、受精卵の細胞数が多い=保存が上手くいっていると考えられるため実験は成功~、なのですが……

細胞を青く染めて一つひとつを数えやすくします。

じゃーじゃーん♪



顕微鏡下でカウントするとどこまで数えたのか分からなくなるため、写真を印刷しチェックを入れながら数えていきます。

こんなにも細胞数が多いと数えるのが大変です(^▽^;)

写真の受精卵たちは300細胞くらいありました!

